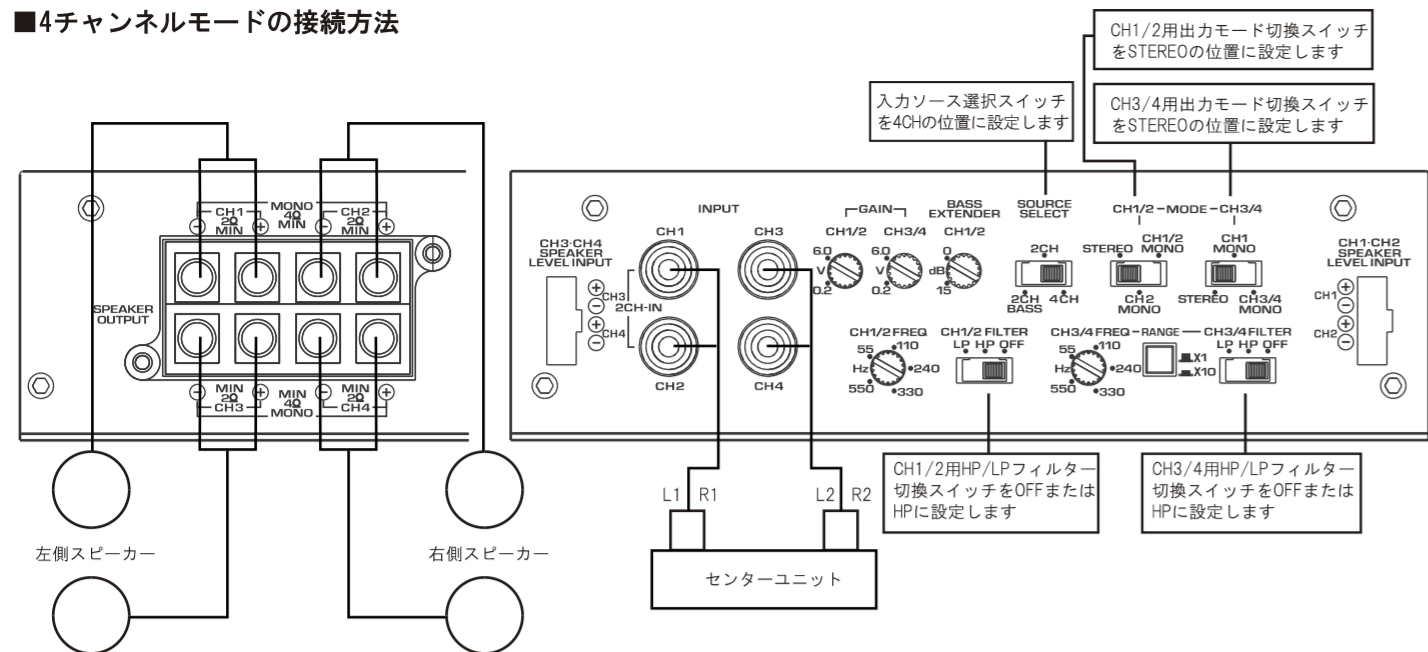
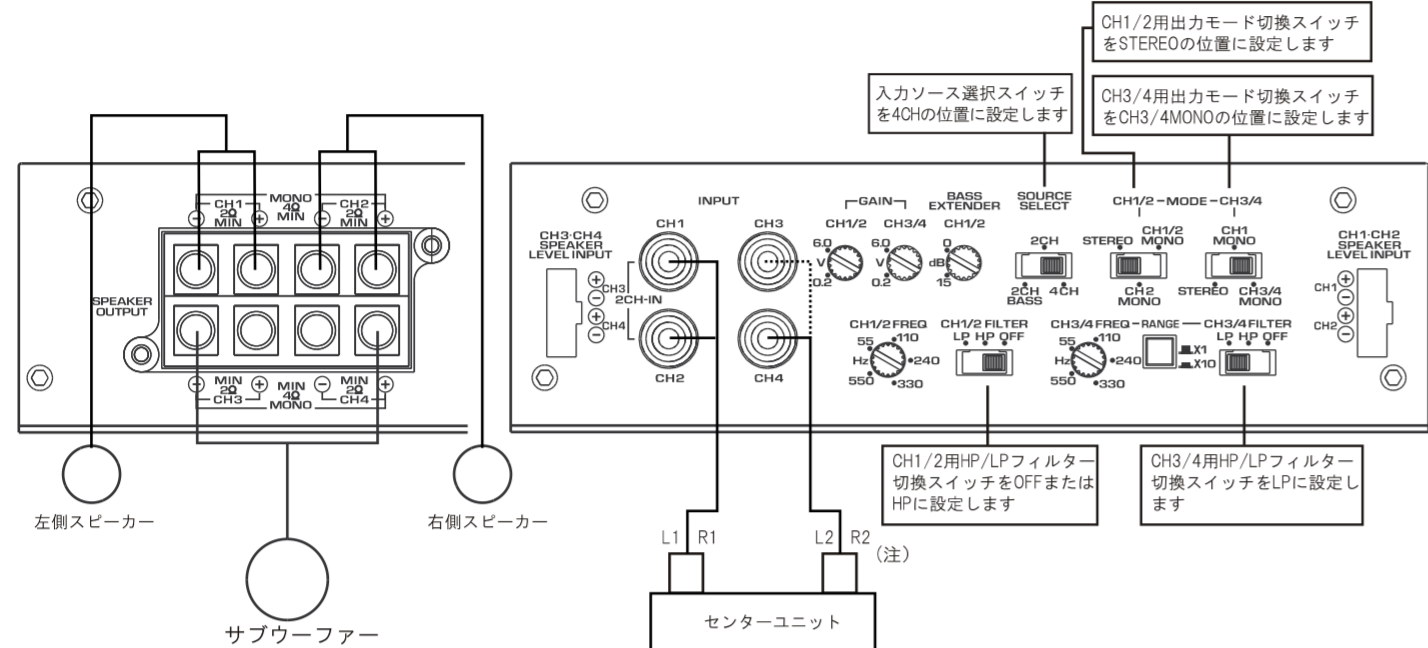


4チャンネル入力の場合

■4チャンネルモードの接続方法



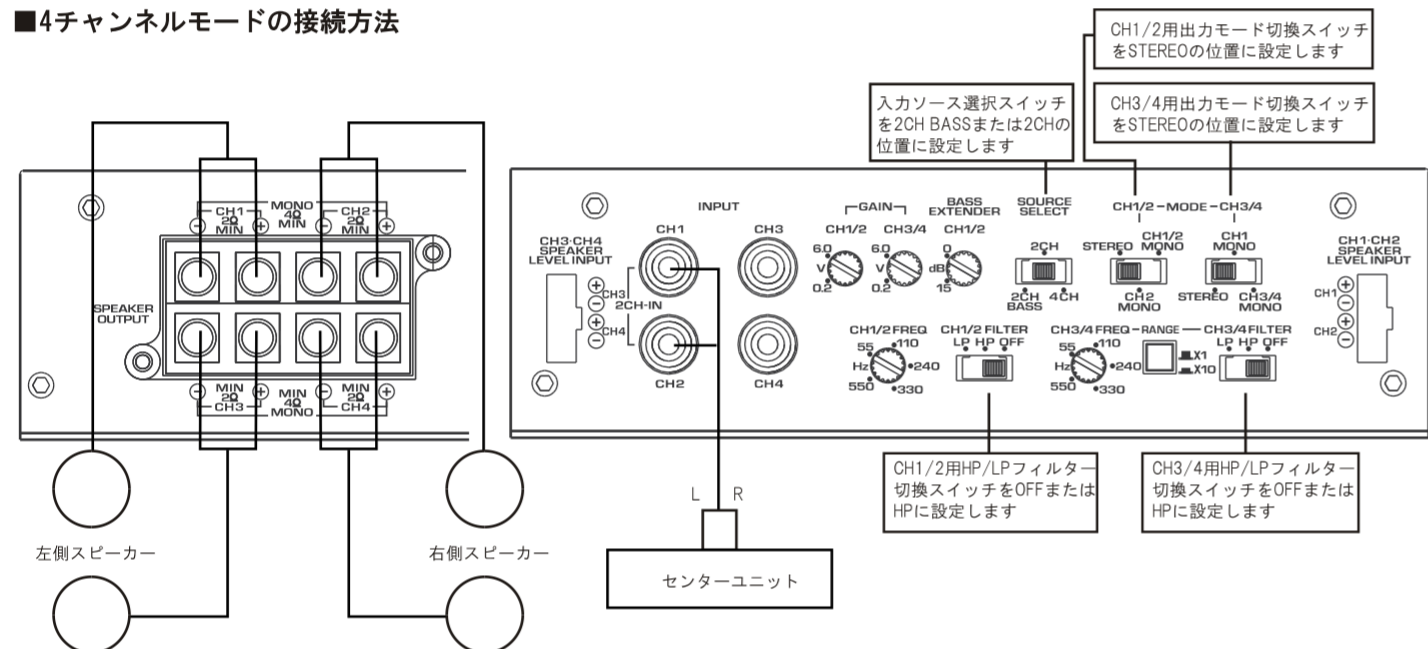
■3チャンネルモードの接続方法



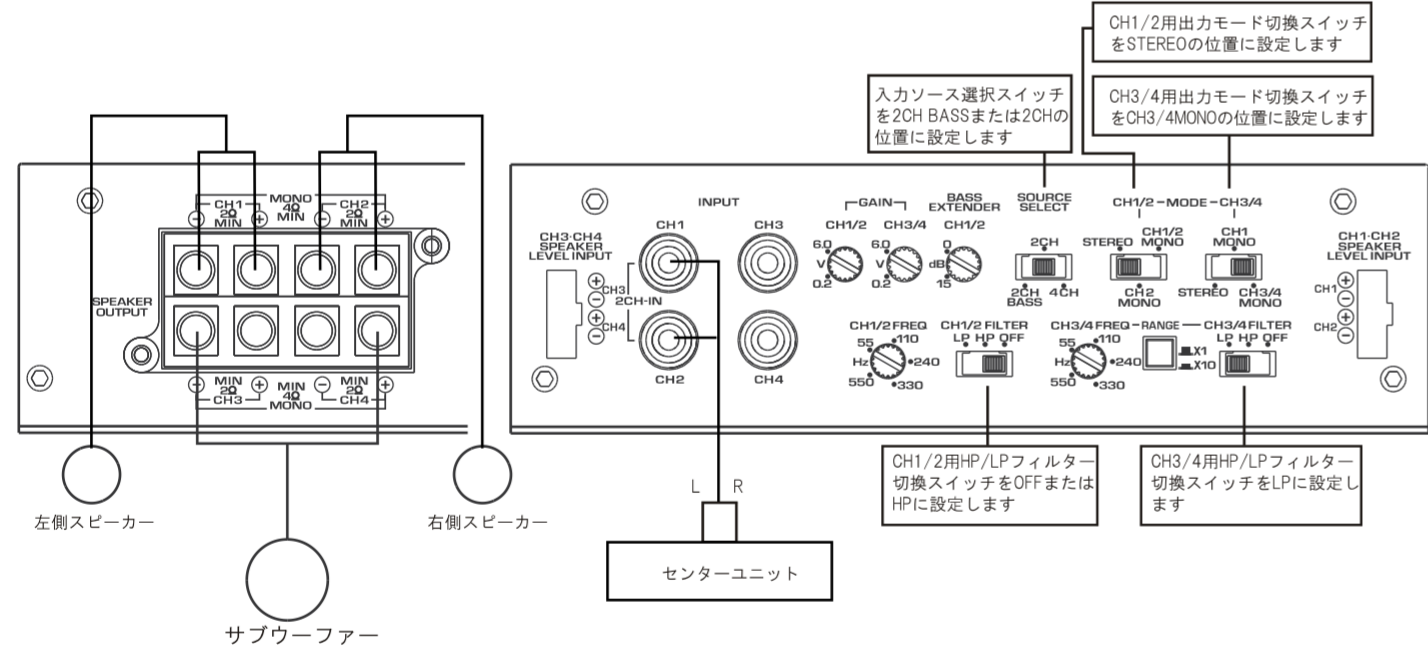
(注)
※センターユニットに予めサブウーファー出力端子が準備されている場合は、その出力をCH3またはCH4に接続してください。
※センターユニットが4CHモード出力でアンプを3チャンネルモードで使用するには、L2をCH3、R2をCH4に接続して使用できます。

2チャンネル入力の場合

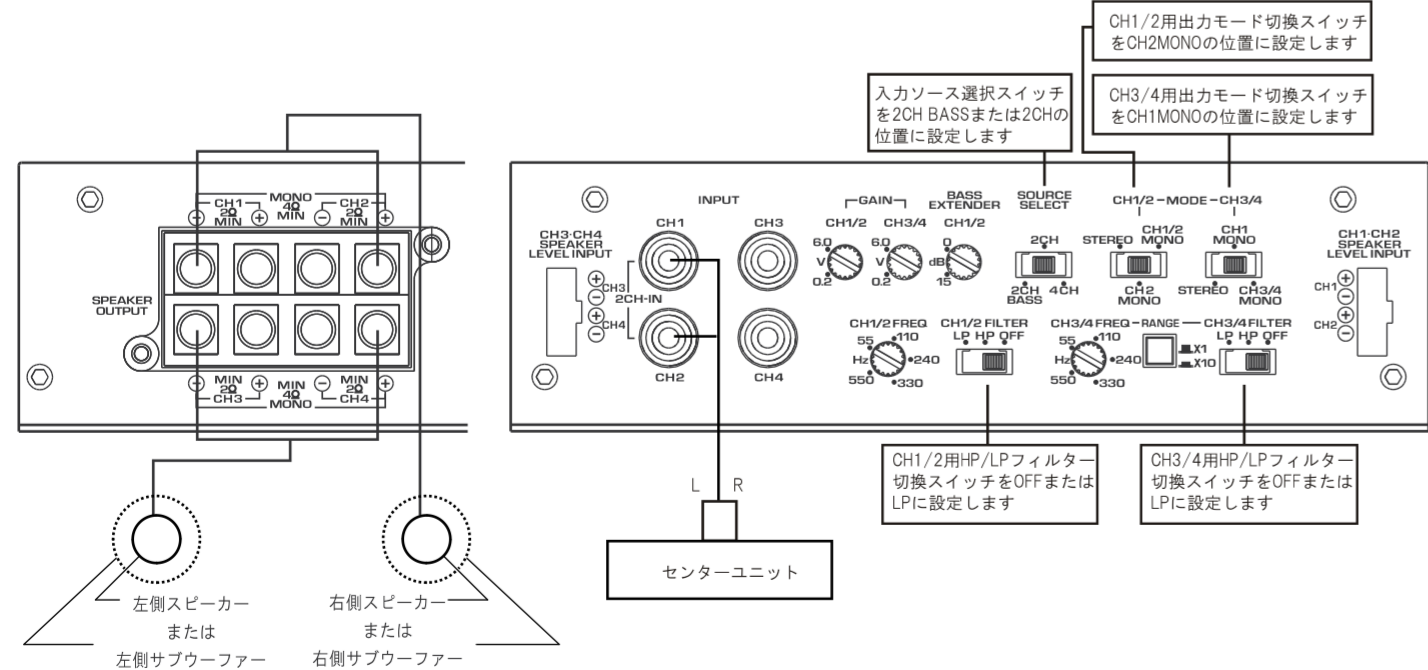
■4チャンネルモードの接続方法



■3チャンネルモードの接続方法



■2チャンネルモードの接続方法



使用上のご注意

サブウーファーが「ポップ」（過可動状態）し始めたら、ゲインコントロールボリュームを下げて、サブウーファーへの損傷を避けてください。サブウーファーの音が濁り歪み（アンブ異音）を生じ始めたら、ゲインコン

電子式クロスオーバー機能の調整（HP/LP）：

①HPフィルター機能（ミッド・レンジ/高域スピーカー対応）設定の場合：HP/LPフィルター周波数調整ボリュームを、12.5Hz程度の位置に設定されることをおすすめします。様々な音楽スタイル（ロック、ラップ、ポップス）を試聴しながら、HP/LPフィルター周波数調整ボリュームを、ゆっくり回して設定値を下ろさせ、最良の位置を確かめてください。ミッド・レンジ・スピーカーの場合、クロスオーバーの周波数分割点は、100Hzの周辺に設定するのが通常です。クロスオーバー周波数をあまり低く設定すると、ミッド・レンジ・スピーカーの場合、高い再生レベルで歪みを生じることがあるばかりか、お使いのスピーカーを損傷しかねません。以上の状況が生じたら、クロスオーバー周波数を上げ（HP/LPフィルター周波数調整ボリュームを時計回りに回して）、歪みを減減してください。

トロールボリュームを下げて、過負荷によってアンプが常時の機能停止状態に陥るのを避け、鮮明な低音感度が回復するのを待ってください。

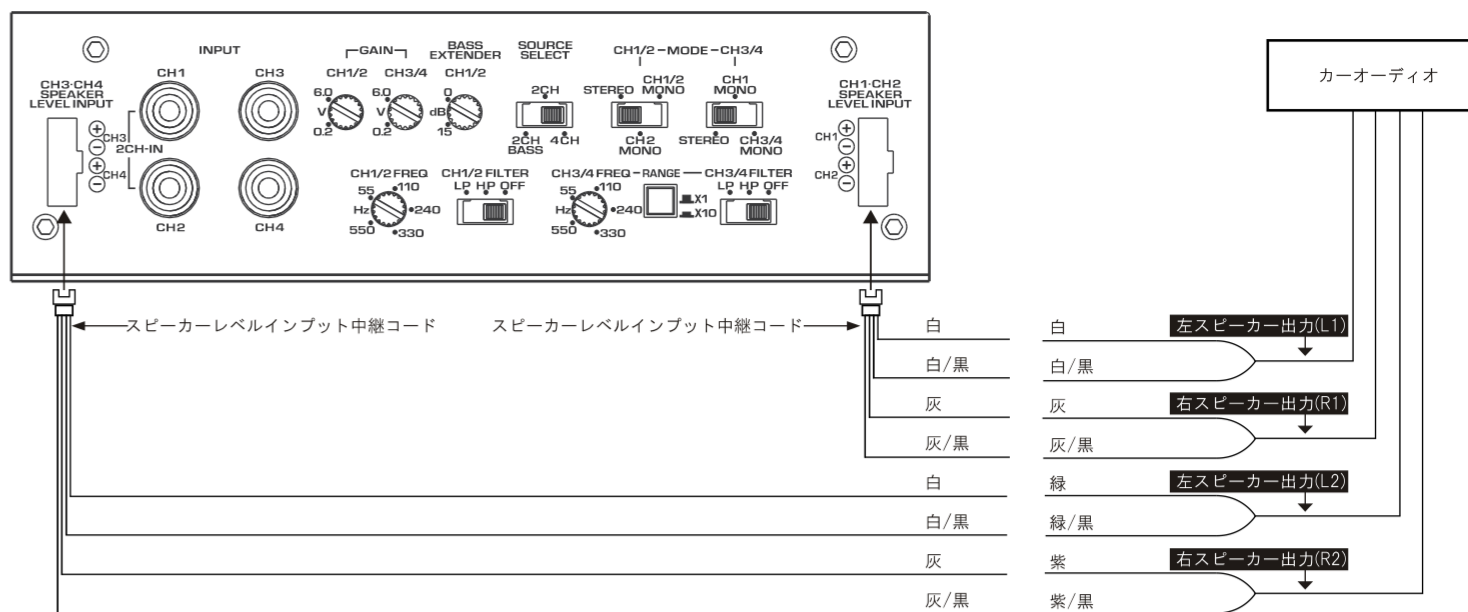
②LPフィルター機能（サブウーファー対応）設定の場合：HP/LPフィルター周波数調整ボリュームを、5.5Hzの位置（反時計回りいっぱいに戻した位置）に設定されることをおすすめします。様々な音楽スタイル（ロック、ラップ、ポップス）を試聴しながら、HP/LPフィルター周波数調整ボリュームを、ゆっくり回して設定値を上げます。サブウーファーの場合、クロスオーバーの周波数分割点は、5.5Hzと12.0Hzの間に設定するのが通常です。クロスオーバー周波数を高く設定すると、再生音が「低音の利き過ぎる」状態になることがあります。

■スピーカーレベルインプット接続方法

市販のRCA出力端子がないカーオーディオと接続する場合は、スピーカーレベルインプット端子をご使用ください。

使用上のご注意

組み合わせるカーオーディオまたはゲインのレベル位置により、ノイズまたはポップ音が発生する場合があります。



9. システムのチェック

- エンジンを始動させ、センターユニットの電源を入れます。2秒ほど遅らせてからアンプの音量をゆっくりと上げ、再生音を聞きます。静電気音、歪みなどなんらかのノイズが聞こえるか、または再生音がまったく聞こえない場合には、接続を確認するとともに「故障と思われる前に」の項目を参照して下さい。お使いのシステム設計によっては、音量コントロールつまみを低く設定した場合でも、再生音レベルがかなり高くなる場合があります。お使いのシステムの出力についての「感触」が得られるまでは、音量コントロールつまみの調整には充分注意を払って下さい。
- バランス・コントロールつまみを左から右へと回しながら、再生音を聴いて下さい。音響効果がコントロールつまみの設定位置と合致することを確認して下さい。
- 音量を上げ、アンプが任意の周波数帯域で歪みなしに音響効果を再現していることを確かめて下さい。歪みが聞こえた場合は、接続を確認した上でゲインコントロールボリュームが正しく設定されているかどうか確かめて下さい。その他の原因としては、スピーカーの損傷（またはは出力不足）の場合が考えられます。もう一度、「故障と思われる前に」の項目を参照して、お確かめ下さい。

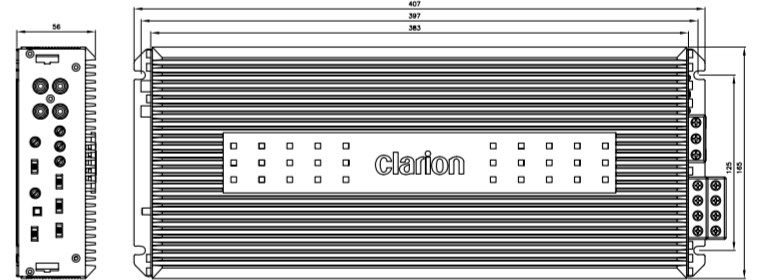
10. 故障と思われるまえに

現象	原因	処置
再生音が聞こえない	外部電源電圧が低いまたはゼロ	アンプおよびセンターユニットの外部電源接続を確認して下さい。
	ヒューズが溶断している	新しいヒューズ（同じ規定容量のもの）と交換して下さい。
	電源コードが接続されていない	・アンプ本体の電源およびアース接続を確認して下さい。 ・バッテリー接続を確認して下さい。
再生音が周期的に途切れる	スピーカーが接続されていないか損傷している	・アンプ本体のスピーカー接続を確認して下さい。 ・コイル・インピーダンスを確認して下さい。
	過熱防護回路によりアンプの作動が停止している	・アンプ設置位置に十分な通風があるか確認して下さい。 ・お買い求めの販売店にご相談下さい。
歪み音	ゲインコントロールボリュームが正しく設定されていないか、スピーカー・コーンが損傷している	・ゲインコントロールボリュームを調整して下さい。 ・各スピーカー・コーンに損傷のしるし(例えば、コーンの凍結、炎焼臭など)がないか確認して下さい。
再生音が迫力に欠ける	スピーカー・コードの接続が正しくなされていないので、低音域周波数信号の減殺が生じている	アンプから各スピーカーへの接続コードの極性が、接続例で図示したようになっているか確認して下さい。
かん高くまたはカチカチと鳴るノイズが、エンジンの始動とともに再生音に混じる	アンプが交流電源ノイズまたは送信アンテナによるノイズをひろっている	・アンプ本体の電源およびアース接続を確認して下さい。 ・オーディオ用ケーブルの配線を確認、または変更して下さい。 ・入力用のノイズ・フィルターを、センターユニットの電源部に設置して下さい。 ・オルタネータ、レギュレータの一方または両方の作動状態を確認して下さい。 ・バッテリーの起電力が低下していないか確認して下さい。

11. 仕様および製品構成

■仕様

定格出力	：90W×4CH(4チャンネルモード) (20Hz～20kHz、0.05%、4Ω、4CH同時出力時) 90W×2CH+260W×1CH(3チャンネルモード) 260W×2CH(2チャンネルモード)
最大出力	：180W×4CH
周波数特性	：10Hz～50kHz(+/-1.0dB)
高調波歪率	：0.025% (1kHz, 10W, 4Ω)
S/N比	：100dB以上
適合スピーカーインピーダンス	：4Ω (2Ω～8Ω)
入力感度	：200 mV～6,000 mV
電源電圧	：14.4V
接地方式	：⊙GROUND
消費電流	：43A(90W×4CH定格出力時) 2.2A(無音時)
外形寸法	：165(W)×56(H)×407(D) mm
質量	：4 Kg

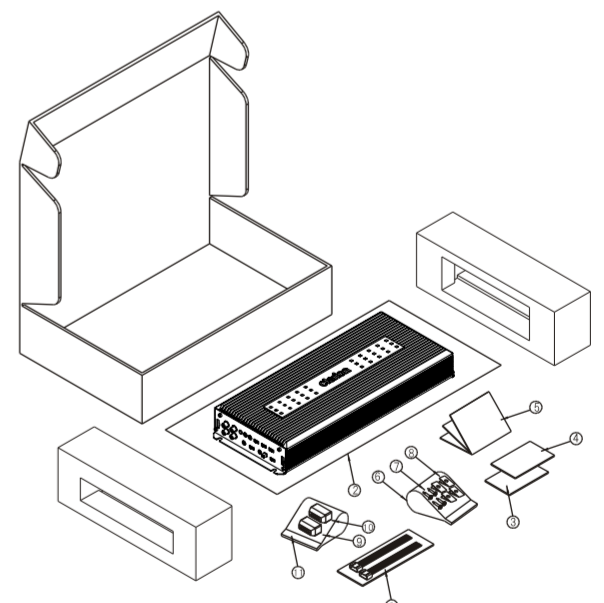


※これらの仕様及びデザインは、改善のため予告なく変更する場合があります。

■製品構成

番号	品名	数量
①	スピーカーレベルインプット中継コード	2本
②	ポリエチレン袋	1袋
③	修理相談窓ロリスト	1部
④	保証書	1部
⑤	取扱説明書	1部
⑥	ポリエチレン袋	1袋
⑦	タッピングスクリュー(4x20)	4本
⑧	プレートナット	4個
⑨	スピーカーターミナルカバー(※)	1個
⑩	電源用ターミナルカバー(※)	1個
⑪	ポリエチレン袋	1袋

(※)…ショート防止保護カバー



12. アフターサービスについて

■保証書

この商品には、保証書が添付されています。お買い求めの際、販売店が所定事項を記入いたしますので、記入および記載事項をご確認のうえ、大切に保管してください。なお、保証書は再発行いたしませんので、ご注意ください。

■保証期間

お買い求めの日より1年間です。

■万一故障が発生した場合

保証期間中に、正常な使用状態で故障が発生した場合には、保証の記載内容に基づいて、無料で修理いたします。お買い求めの販売店、または最寄りの弊社修理相談窓口にご相談ください。

なお、弊社サービスセンターから代替品(リンク品)を直接取り寄せる「ダイレクトエクステンジシステム」を取扱っている販売店がございます。修理納期の短縮等、お客様にとって魅力あるサービスシステムとなっておりますので、販売店へご確認下さい。

■保証期間経過後の修理について

修理することにより機能が維持できる場合には、お客様のご要望により、有料で修理いたします。

■補修性能部品の保有期間について

本商品の補修性能部品(機能を維持するために必要な部品)は、製造打ち切り後6年保有しています。

クラリオン株式会社

本社事務所
〒330-0081 埼玉県さいたま市中央区新都心7-2
Clarion ホームページ <http://www.clarion.com>

お問い合わせはお客様相談室へ

フリーダイヤル：0120-112-140

(9:00～12:00・13:00～17:30/土・日・祝祭日を除く)

ご購入年月日	年 月 日
ご購入店名	TEL.
製造番号	

*お客様へ…ご購入年月日、ご購入店名などを記入されると、あとでお問い合わせされるときに便利です。